

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (志摩市) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 8 月 21 日 (日) 13 時 00 分～14 時 00 分

2. 対談場所

志摩市磯部生涯学習センター 1 階 多目的ホール
(志摩市磯部町迫間 878 番地 9)

3. 対談市町名

志摩市 (志摩市長 大口 秀和)

4. 対談項目

- 1 地方創生の取組
- 2 ポストサミット
- 3 伊勢志摩国立公園の活用

(1) あいさつ

知 事

皆さん、こんにちは。今日は日曜日にもかかわらず、この 1 対 1 対談のお時間をいただきまして、大口市長、本当にありがとうございます。また、お忙しい中お越しいただきました山本県議をはじめ多くの皆さんも、本当にありがとうございます。

なんといいましても、5 月 26 日、27 日の伊勢志摩サミット、これが大成功かつ無事故で終えることができましたのも、志摩市の皆さんの様々な面での御協力があってこそだと思っていますので、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

もちろん伊勢志摩それから賢島、それぞれ知名度も上がったと思いますし、夏休みの観光客なども増加していると聞いています。賢島のエスペランサ号も 6 月、7 月は、前年比で 7 割ほど増えているという話もあります。今、観光客が増えているところをさらに広くいろんな範囲のところに行くように、また、このサミットのチャンスを皆さんでしっかりとつかんでいただけると期待したいと思いますし、我々もしっかり頑張っていきたいと思っています。そういう観光スポットのみならず、伊勢エビをはじめ食材もたくさん使われましたので、ぜひチャンスを生かしていただければと思います。

それから、今、オリンピックが開催されています。残念ながらメダルには届きませんでした。志摩市出身の山口選手も大活躍して女子バレーボ

ールも盛り上がったところです。スポーツの関連では、志摩ノ海も、ちょうどサミットのときに活躍をしてくれたということで、「スポーツ観光都市宣言」されたこの志摩市ですから、このサミットを生かして、観光のみならず、今、トライアスロンなども盛り上がっていますから、スポーツもぜひ力を入れて取り組んでいただきたいと思いますし、私どももしっかりとサポートしていききたいと思います。

それから、何よりもうれしいニュースとして、この伊勢志摩国立公園が70周年を迎えるこの年に、国立公園満喫プロジェクトで伊勢志摩国立公園をナショナルパーク化するというので8つのうちの1つに選定していただきまして、これもまた自然体験、あるいは志摩市で進めていただいている里海、そういうことも含めて、今後の伊勢志摩国立公園の保存・活用などの追い風になったと思っています。11月に70周年の記念事業、全国エコツーリズム大会をはじめ迎えるわけですが、皆さんと協力して盛り上げていきたいと思っていますので、なにとぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

今、いろんな出来事が集中している志摩市ですので、ぜひ、これを地方創生に結び付けていただきたいと思いますし、県としても市と連携して取り組んでいきたいと思ひます。今日は、限られた時間ですが、有意義にすごしたいと思ひますのでなにとぞよろしくお願ひします。本日は、どうもありがとうございます。

志摩市長

皆さん、こんにちは。知事には本当にこのような貴重な時間をいただきまして、ありがとうございます。心から感謝いたします。

先ほど知事もおっしゃいましたが、5月26日、27日の伊勢志摩サミット、大変ありがとうございます。知事曰く、このレガシーをいかに三重県政に生かすか、三重県の県政の振興を図るかということで、日夜心を砕いておられる。そんな中でも、伊勢志摩のことに言及していただき、また、先ほどは志摩市内の山口舞選手、志摩ノ海にも言及していただきありがとうございます。本当に知事のこういった心憎い御高配にいつも感謝いたしております。

今日は、また地方創生ということでいろんなことをお話しますが、よろしくお願ひいたします。本日は、皆さん、よろしくお願ひいたします。

(2) 対談

1 地方創生の取組

1-1 志摩市創生総合戦略について

志摩市長

志摩市創生総合戦略についてお話いたします。

45年後の人口減、そのときにも志摩市が志摩市として生き残るためには約3万人の人口が要る、これは、志摩市のみならず全国的な課題ですが、そういった先々を見越したことで我々も総合戦略を作りました。

そこで、現在、その総合戦略にのっとり、43の具体的な事業を出したところですが。それは今年から始まった事業、来年着手する事業、この5年間で解決すべき問題というのを43抽出しました。

今回の地方創生の一番大本は、志摩市が志摩市であるために人口減を止める、そして、若者が住みやすい仕事の強化、そして、若者がここで働ける仕事の創出、そういったことに対して地方創生加速化交付金を活用して進めています。

次に、一次産業も含めた裾野の広い観光産業の成長が、地域にとっては何よりも重要だと思っています。このサミットでみられましたように、本当に観光は裾野の広い産業ということで、例えば地物の食材、林業、いろんなものが構成をしながら観光ができています。ですから、観光産業の振興というのは、今、志摩市にとって一番大事なものですので、これについてもよろしく御高配をお願いしたい。

また、観光産業といいましても、一次産業を含めて、単純な右肩あがりの成長だけでなく、いつまでも循環できる形、そして、それが成長できる形で、我々は、今回の43の事業をつくりましたので、これについてもよろしく願いいたします。

具体的には、伊勢志摩地域の自然環境、文化、そして食という、今回のサミットで示されました本当に素晴らしい観光資源をこれからも磨いていくために、そして、持続的な産業として捉えるために今頑張っています。

その中で、特にサミットで示されましたが、我々は常々「観光、観光」と言いながら果たして観光産業にどれだけ力を入れてきたのかと反省させられました。例えば学校案内板の問題とか、実際尋ねても英語をしゃべれる人がいないとか、そういうことで、今回はガイド事業、これを「観光のまちづくり」の1つの事業としてやっています。というのは、観光ガイドは本当にお金になる、新しい職ができるということで、観光ガイド業の創出事業をやっています。これは、この資源につなげてこの地域をよくしていくための観光まちづくり事業の一環としてやっています。

先ほど言いましたように、これまでの反省というのも実は「観光、観光」と言いながら、何人が観光に来て、いくらお金を使っていたのか、そういった基礎的な数字をつかんでいませんでした。やっぱり定点観測をしながら具体的な数値を持つことが大事なことでありますので、今回は、

そういった把握に対しての事業も今始めております。

加えて、知事からご紹介いただきました東北大学大学院環境科学研究科の古川教授、この間もお話させていただきましたが、本当に古川教授は、今の拝金主義、楽な生活から本当に利便性の高い生活、そこに人間の心が宿るような本当に温かい生活を求めるためには、過去をみて現在をみて、そしてエネルギーの少ないときでも人間は豊かであった、そういった状況の中でも、現代に還元できないかということをやっていたいただいておりますが、大変ありがたいです。今回も波切の方々とお話していただいて、特にそういった、大王町波切について古川教授にお願いしたわけですが、そのこの老人の方々から過去の良きことを聞き出して、そして現在とマッチングさせるという事業をしていただいて大変ありがたいと思っています。これが、志摩市創生総合戦略についての概略でした。

知 事

今、志摩市の総合戦略についてご紹介をいただきました。観光産業は裾野が広いという認識については大変重要だと思っています。我々も、この4月からスタートした観光の新しい計画のポイントは「観光の産業化」ですので、観光を、お金がしっかり循環する産業にしていこうというのが我々の思いでした。それと共通する思いでした。

今までの観光は単純にイベントをどんどん打っていったりするということが多かったのですが、例えばものづくりであれば、マーケティングをして研究開発をして試作品を作って、市場に出してみ、そのコスト削減のために努力し、人材育成をしたり、事業環境整備をしたりというのが産業政策として当たり前のことですが、観光ではそうになっていなかったもので、そういう仕組みをしっかりとつくって観光を産業化し、観光でお金が増えるようにしていこうと我々も思っています。

とりわけ観光については、その計画においても、三重県は、この4年間、観光入込客数を一番の目標にするのはやめまして、観光消費額を一番の目標にし、加えて、その消費に直結する宿泊者数をなるべく重要な指標にしようとしてきました。あとは、リピート意向率というのを重要な指標にしようとしてきました。そして、観光というのは本当に小規模事業の皆さんも含めてある産業ですので、ぜひ、そういう「観光の産業化」、観光産業の成長を通じた地方創生というのは大変共感できる場所ですし、しっかりと連携して取り組んでいきたいと思っています。

2 ポストサミット

2-1 サミット開催地の有効活用

志摩市長

今回、伊勢志摩サミットを賢島で開催していただいたこと、これは非常にありがたいです。といたしますのが、今、地方の空洞化が進んでおり、自分たちの町を知らない、自分たちの町を愛さない、そういった子どもたち大人たちが増えていきます。結局は、地元を愛さないということで、地元に対する意欲がない、こういう方たちを払拭するために、今回、サミットに来ていただいた。あのときに、知事も頑張っていたら、安倍総理の口から「日本の原風景、精神性が体感できる」、しかも「その食を味わいたい」と言っていたら、そういった世界の要人が来ていただける町であるということに、改めて気付いた、このことに本当に志摩市民にとって一番ありがたかったし、我々が地方創生をしていく、また志摩市を振興していくためにも大きな力をいただきました。このことにつきましては、これから子どもたちにも、まず学校のほうでサミットの勉強をしながら、なぜ志摩市にサミットが来たのか、サミットで何ができたのか、そのときに我々は何を出したのか、どんな対応ができたのか、こういったことをこれから細かく子どもたちに解きほぐしながら、まず自分たちの町へ目を向けていただきたい。また、大人たちも、そういう町だということで、ご理解いただいて、ぜひ地域全体でこの町をよくしていきたい。

ところが、そうはいいまして、平成16年に合併しましてから10年経ったんです。実は、合併前の50年間はそれぞれの町々が自分の町のことに一生懸命になっていた。合併してみると違うので、それまでの頑張りがにじんでしまって、最初の何年間、きちんとした政策がないと、どうしても町にまとまりがなくなる。そういう中で悩んでいた中で、まず海とそれから地域経済に着目して早速取り組んできたわけです。「稼げる、学べる、遊べる」とやったわけです。

そこで、まず、地元を見てもらおうと思ったのですが、そういう中で今回は国のほうから創生総合戦略を立てるということで、これは理にかなったことで、我々としては大変うれしいことでした。

その中で一番大事なのは、まず子どもたちが学ぶ、それから知っていただく、そのための手立ては何か。いろんなこと、きれいなことが書いてあるのですが、一番大事と私が考えているのは、今、志摩市に大きな企業があります。近鉄、スペイン村などのホテル業で、今回泊まっていたいただいたベイスイートなど、こういう方々といかに連携するか。できれば、将来的には市の政策推進部の中に営業課をつくりながら、そこに企業の方々が

自由に出入りできる。そのことによって我々も企業に出入りできる。企業の戦略は志摩市の戦略、もちろんそれは迎合ではありませんが、そういったことをしながら、まず地域を守るためには、地方の方々が動くことが大切だと思っています。

もう一つは、このサミットで知ったことなのですが、実は、意外と地元の方が地元を知らない。もちろん合併したけれども、実は隣の町の祭りでも行かない。なんとなくやっているなど。そうではなく、今回はやっぱり勉強していただく。これは学生と中学生が学ぶだけではなく、一般の方にも知っていただきたい。それ以上に、まず、地元の職員が地元を理解することが大事だと。そのために、私が考えているのは、5町が合併する前に作った町史がありますので、町史を全部ひも解いていただいて、胸の中に改めて志摩市をつくる。そのことによって、もういっぺん町が見える、人に語れる、そういった人材づくりを職員にやってみたい。もう一つは、市民の方々ですが、実は隣の町のことを知らない。一番簡単なのは、観光協会に置いてあるパンフレット、このパンフレットをできたら各家庭に配って、もういっぺん新しくやり直したい。本当に「観光、観光」と言っているのですが、サミットを開催した、それから来ていただいた、そして、そのときに志摩市民は全員で頑張って、「力を合わせればできる」という実績ができた。これを我々は、知事の言われるレガシーができたのですが、これを生かしていくために、そういった細かいことをしながらまちづくりをしていきたい。こういったことについて、知事からご意見をいただければと思います。

知 事

ありがとうございます。実際に、改めて、志摩市のみならず三重県民の皆さん全体が三重県のことを知る機会になった、それは、本当に共通していると思います。志摩市ではないのですが、例えばこの志摩観光ホテルで行われたワーキングディナーで使われた松阪肉のヒレ肉の横に付いていたワサビは大台町の旧宮川村産ですが、そこでワサビを作っていたということを知っている人は本当に限られていて、大台町の中でも知らなかったけれども、それによってみんなが知ることができたというような、サミットがあったことで、自分たちの地域の資源を改めて知ることができたということは、非常に大きな財産、レガシーだと思いますので、それを共有していく仕組みをつくるということは大変重要なことだと思います。

それから、「まず自分たち自身が知る」ということについては、昔の統計ですが、じゃらんが出している統計で、「自分の地域が好きだ」という人の割合が多い地域ほど観光客が多いと、そこに相関関係があるという、

因果関係とまでとは多分言えないと思いますが、相関関係があります。つまり、自分たちの地域が好きで自分たちの地域をPRしたり、自分たちの地域に来てくれた人をおもてなしすることで、改めて人が来たりまたリピートしたりということにつながっていくと思いますので、まず、その前提として、自分たちの地域を知るということは、サミットをきっかけとした地方創生の取組として大変ふさわしいのではないかと思います。

志摩市長

もう一つは、そういった人々が自己実現を図る、安心して生きていくためには、医療、環境などたくさんありますので、また、これからいろいろとご相談よろしく申し上げます。

2-2 伊勢志摩ナンバーの実現

今回の伊勢志摩サミットが成功され、知事と東京へ行ったときも、総理からお褒めいただきました。この地域の特性を生かした伊勢志摩ナンバーの実現をしたいと考えています。今注目されている伊勢志摩だからこそ実現する可能性があると思うのです。このことこそ、知事のレガシーを人々の心に焼き付けるための刻印だと思いますので、これについてもまたよろしく申し上げます。

これについては、鈴鹿市はもう既に取り組んでいます。なんとかこの伊勢志摩地域でもこれを生かすために、国への働きかけについて、知事のリーダーシップのもとで一層の御支援をいただきたいと思います。

我々もそういったことをしながら、伊勢志摩サミットを開催したということに責任を持って、役割を果たしていきたいと思いますので、これについての御意見を申し上げます。

知 事

ありがとうございます。伊勢志摩ナンバーにつきましては、去る7月21日に、志摩市、伊勢市、鳥羽市、県の合同で要望に行きました。御案内の方も多いと思いますが、あらためて申し上げますと、いわゆる御当地ナンバー希望地の募集がないと実現できません。今までに2回ありましたが、「3回目の募集を行ってください」というお願いに行かせていただきました。

その募集が始まってから伊勢志摩ナンバーの実現ということに働きかけをしていく必要もあるのですが、全国的に、そのような御当地ナンバーを募集してほしいという機運の醸成も大事ですので、それがないとそもそも

国土交通省が募集しませんので、その募集が始まるように全国の仲間に働きかけるということを、我々も取り組みますし、市町の横のつながりを取り組んでいただいたり、あるいは、民間企業や観光協会などの横のつながりでやっていただくということが大事だと思います。ぜひ、それは連携して取り組んでいきたいと思っています。

併せて、国土交通省の自動車局の方からアドバイスをいただいているのは、平成30年度に図柄入りナンバープレートというのができます。「ナンバープレートに図柄を入れてもいいように」という法律改正がされており、平成30年からスタートをすることになります。これは、元々オリンピックに向けての盛り上げというのがあったのですが、その図柄入りナンバープレートのスタートに合わせて、この伊勢志摩ナンバーが入っていくような、そういうタイミングを目指すのがいいのではないかと、国土交通省からアドバイスをいただいています。ぜひ、我々としても、そういう形で汗をかいていきたいと思っています。また、一定の登録自動車数が必要になりますので、そういう部分の連携の調整なども一緒になってやっていきたいと思っています。

いずれにしても、先ほど申し上げた、まず、第3回目の募集につながるように、国土交通省としては、図柄入りナンバープレートも手を挙げてもらおう方式になるので、それについてはもう決まっています、盛り上げたいという気持ちがあるので、それに便乗してではないですが、全国的に盛り上がって第3回目の募集があるようにしっかり働きかけを一緒になってやっていきたいと思っています。

志摩市長

またよろしく申し上げます。また、今回、伊勢志摩国立公園70周年記念式典が今年の11月にありますので、それに向けても取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

2-3 地域観光DMOの構築

次に、地域活性化の中で、地域DMOの構築というのがあります。この三重県の活性化に伊勢志摩地域として我々ができることは、観光関連産業の振興であり、これは、志摩市としても、先ほど言いましたように観光産業を通じて県の一翼を担いたいと思っています。そういう意味で、今回はこれをどう成長させるかが大きなテーマになっています。

その中で、観光産業を興すためには、今までの国内誘客と同時に、海外からのインバウンドをどれだけ誘致するかにかかっています。

現在、県を通じて国からの御支援をいただきながら、地域DMOの構築と機能強化に取り組んでいるところです。

この地域DMOの取組を強化して、伊勢志摩地域の観光関連産業を爆発的に成長させるには、伊勢志摩地域として欧州からのインバウンドやアジアの富裕層といったターゲットを絞ったマーケティングを実施して、各地域のDMOの取組と連動させていくことが理想だと思っています。

現在、我々も、地域の中で、若い連中がそういったDMOの講座も行っています。例えば、スポーツコミッションのグループでは、トライアスロンを誘致するなど、いろんなことをしながら地域の活性化に取り組んでいます。それで、彼らがいかに行政と組みながらDMOになっていくか、また、もう一つは、この地域でダンスサミットもやっています。このダンスサミットのグループがいろんな文化活動に関して、どのようにDMOをやっていくのかということも考えておりますので、そういったことについてもまた御指導いただければありがたいと思います。

知 事

はい、ありがとうございます。本日来ていただいている皆さんはもう既に御存じだと思いますが、あらためて申し上げますと、DMOというのは、Destination Management あるいは Marketing Organization ということで、観光としてこの地に来てもらうためのマーケティングとか、PRとか、あるいはいろんな人たちを巻き込んだマネジメントを行う組織のことをいいます。

これは、元来、例えば観光協会とかそういうものが日本全国にはたくさんありますが、観光協会が入込客のビックデータとか、例えば「どういう国から、どういう年齢の人たちが、何泊して、どんなところに行ったか」というようなデータを整理して、そのデータを活用して、例えば台湾からの40代の男性が多いということであれば、そこを集中したマーケティングをやるということを、例えばそういうことをやっていた組織が、日本の中であるいは三重県の中で、志摩市の中であったかということ、多分なかったと思います。

ですので、行政でそういうことを全てやるというよりは、民間の力を借りてDMOを作って観光のマネジメントをしっかりとやっていこうというのがDMOの制度で、それをつくるのだったら応援しますというのが、今回の国の地方創生の中の取組の大きなポイントの一つです。

三重県としましても、まず地域版、単独市町または複数市町のDMO、これは地域DMOといいますが、これの設立を今年度中になるべく促していきたいと考えています。平成29年度中に三重県DMO、また、それ以降

に、必要があれば、県を越えた広域DMO、こういうものの創設に向けて取り組んでいこうと思っています。今、市長がおっしゃっていただいたような、スポーツコミッションとかあるいは伊勢志摩コンベンションとか、そういうところをベースとした地域DMOをつくっていただくというのは大変ありがたいことです。

今、県内では、大台町が地域DMOの登録を済ませています。大台町の観光協会が株式会社化をして、登録法人になる形をとっています。大台町は、ユネスコエコパークの認定を受けたということもありますので、山や川の自然体験を中心としたDMOという形で進めていただいております。

海外では、こういったDMOのような組織は当たり前になっていて、こういうDMOが無いほうがおかしいぐらいの感じなので、三重県としても積極的に地域DMOあるいは全県DMOに取り組んでいきたいと思っています。

それで、三重県の観光審議会の委員もやっていただいている、スイスのツェルマットというところにいる山田桂一郎さんという観光カリスマの1人ですが、彼からアドバイスされているのは、観光DMOは大事だけど、それとまちづくりが連動していないと意味がないと。観光に来てもらうためだけにマネジメントやマーケティングをやるDMOではあまり意味がなくて、まちづくりと連携して、「こういう誘客をするから、ここの地域のこういう人にはこういう役割を担ってもらおう」とか「こういう地域のこういう部分を整備していこう」とか、まちづくりと連動したDMOの取組というのが大事だというアドバイスをいただいているので、まさに地方創生そのものだと思います。

我々、県としてもいろんな連携をして、情報提供とか意見交換とかサポートとか協力をしっかりしていきたいと思いますが、まさに冒頭に市長が御説明いただいた地方創生の根本の軸に沿った形でDMOをやっていただくのが一番いいのかなと思っていますし、早期にこのDMOができるような取組をしっかり私どもも協力していきたいと思っています。

そのマーケティングのときに大事なのは来てもらう人の目線で、我々が「これがいい」と思っている、それが本当にいいのかどうか、実はもっと違うもののほうがいいのではとか。今回のサミットでも、36ヶ国の海外メディアの皆さんに来ていただきました。食事を食べてもらいましたが、我々ですと最初に八寸、いろんな種類の季節の物が少しずつ乗っているような、我々はそれを当たり前のように受け止めています、海外のメディアの人たちはほとんど手を付けませんでした。分からない物には手を出さないということです。例えばアワビなら、これはアワビとすぐにわかりますが、「八寸」となっていて何が何か全く分からないわけですね。分からな

い物に手を出さないのは、我々が海外旅行に行ってもそうでしょう。全然見たことのない物とか、分からない物に、一部の人はチャレンジするかも知りませんが、分からない物には手を出さない。では、それを分かるようにするにはどうしたらいいのか。観光立国論を書いているデービッド・アトキンソンさんも言っていましたが、例えば伝統文化の説明においても、江戸時代というのは、僕らは当然のように分かっている、英訳でも「Edo era」と書きますけども、ほかの国の人からしたら「江戸時代って何」というふうになります。そういう目線をどう変えていくかということも行政で全部をやっていたらだめなので、地域づくりとDMOとが一緒になって、地域全体がそういう目線に合わせていくというか、顧客目線を意識した対応にしていくということが大事ですので、あくまでDMOは先頭に立つ組織ですので、地域全体の市民の皆さんの御協力が欠かせないということだと思います。

志摩市長

ありがとうございます。知事がおっしゃるように、我々もこれまでずっと10年間、志摩市が誕生してから観光、地域振興に努めたわけですけども、そういったいろんな組織とのつながり、そういったものが正直いって鎖がつながっていなかったと思います。サミットは万能薬ではありませんが、伊勢志摩サミットが開催されたおかげで、商工会、観光協会、工業会などがそれぞれの自分たちの役割を認識してきた、それをいかにして我々行政がまとめるかというのがよくわかりましたし、これについても、我々もしっかり頑張りたいと思います。

もう一つは、そういった方々にも、今回のサミットを通じて、自分たちの地域における役割分担を認識していただく、それを出し合うと今度は志摩市として大きくなるだろうということが見えてきましたので、これについてもまたよろしく御指導お願いいたします。

知 事

市長から問われていて一つ言い忘れたことがありました。ポストサミットの関係で、最初の「サミット開催地の有効活用」ということで、既に申し上げているとおり、年度内にサミット記念館を志摩市賢島に造るということで現在、志摩市さんとともに準備をさせていただいております。

もちろんその中身について我々もしっかりやっていきますが、いろんなミュージアムとか記念館とかの教訓を踏まえて、「また行ってみたい」とか「一度は必ず訪れてみたい」と思うような記念館にしていきたいと思えます。そして、その記念館だけではなく、記念館で展示されている物と、例

えば賢島のいろんなホテルにおける展示とかPRとかがうまくつながっていくような、そんな形で我々も、民間の皆さんの御協力をお願いしていきたいと思っておりますので、このサミット記念館も生かした取組を、志摩市さんと連携して取り組んでいきたいと思っております。

志摩市長

サミット記念館ですが、実は、我々としても大きな政策の要、大切な事業の1つと捉えております。「県が造ってくれたから」で終わりではなく、やっぱり賢島に造ることによって、今まで、伊勢神宮にお参りに来る、そして鳥羽に泊まる、で、鳥羽から志摩へのお客さんが少なかった。今回、そういったことでサミット記念館ができれば、誘客する要因にもなるし、また、英虞湾を周遊してもらえる。英虞湾でいろいろな事業をしながら、志摩へ来て、学んで、遊んで、稼げる場所をつくりたいという位置づけで我々は捉えています。

ですから、今知事がおっしゃっていただきましたが、短期間の施設ではなくできれば永続的に設置していただいて、志摩市の発信、三重県の伊勢志摩サミットの発信となるような場所にしたいと考えています。そして、志摩市観光発信の起爆剤にしたいと考えています。

同時に、これは近畿日本鉄道の土地ですので、できれば近畿日本鉄道と連携しながら、大阪の海遊館と合わせてPRし、志摩マリンランドを体験型にするよう働きかけていきたい。DMOですが、企業と行政が組みながら、それに観光業も組みながら、来ていただいてサミット記念館で学んでいただく、そして地域を見ていただく、そして志摩市を見ていただく、そういうふうにしていきたいと思っておりますので、かなり大きな計画になると思っておりますが、またよろしく申し上げます。

もう一つは、サミットが終わってもう2カ月以上経ち、段々と記憶が薄くなっていく中でも、志摩市として一番ありがたいのは、今度はサミット記念館を造ることで、もう一回、伊勢志摩サミットがよみがえるということで、我々は大変期待しておりますので、その節はよろしく申し上げます。

この賢島は、実は近畿日本鉄道が名古屋、大阪、京都からお客さんを連れてきていただく終点。翌日にはここが名古屋、大阪、京都への始発点になります。そういう意味で、その電車に絡めて、三重県の情報発信の基地にしたい。これは志摩市だけではなく、伊勢志摩が説明できる。ここへ来ていただいたら、三重県の説明ができる。ということで、三重県から発信していくようなことを考えておりますので、その節には、ぜひともいろんなお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

3 伊勢志摩国立公園の活用

3-1 国立公園満喫プロジェクト

志摩市長

伊勢志摩国立公園が70周年ということで、一般財団法人伊勢志摩国立公園協会会長の山本県議会議員も本日、来ていただいておりますが、今回の知事の御努力、本当にありがとうございました。国へも陳情していただいたということで、国立公園満喫プロジェクトに今回、指名されて、非常にありがたいです。

ですから、これがこの70周年にあたったことが非常にうれしく思っています。11月には、先ほど言いましたように、記念大会があります。今回はサミットを含めて、エコツーリズムもありますということで、ぜひとも、これには知事にも参加いただきますよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

知事

ありがとうございます。まずは、今日、山本協会長にも来ていただいておりますが、伊勢志摩国立公園協会の皆さんや志摩市の皆さんも一緒になって、このナショナルパーク化に指定されるように熱心に働きかけをしていただきまして、本当にありがとうございました。

元々5カ所ぐらいといわれていたのが8カ所になったということは、僕の経験からしても、超激戦であったという証拠であろうと思ひます。32の国立公園があつて、そのうちの16か17が今回手を挙げて8カ所が選ばれたわけですが、相当激戦であったという中で、一定の課題がある中で勝ち切れたのは、私、丸川大臣にも直接何度も御連絡させていただきましたけれども、やっぱり地域の熱意というのが非常に大事だつたとおっしゃっていただいておりますので、地元の皆さんの「やるんだ」という思いが強かつたと思ひておひまして、あらためて感謝を申し上げたいと思ひます。また、サミットの直後であつたということや、70周年の記念事業を迎える前ということですので、ポストサミットや70周年記念事業に大きな弾みがつく、そういうナショナルパーク化の選定であつたと思ひておひます。

一方で、丸川大臣のもとへお礼に行ったときも同じことを言われたのですが、「選ばれて終わり」ではなくて、「選ばれてからがスタート」なんです。また、後に詳しく説明しますが、たくさんやらなくてはいけませんので、できれば今月中ぐらいには、ナショナルパーク推進協議会準備会みたいなのを立ち上げて、皆さんの御協力を得たいと思ひておひます。

ナショナルパークに求められているのは、ビューポイントを選定してそ

れを保全する仕組みもつukらないといけないですし、あるいは、地元の大学や企業と連携して地域観光を担う人材を育成する仕組みをつukるとか、あるいは、バリアフリー観光やW i f i 無料アクセスポイントを増設したり、伊勢志摩国立公園のよさは人と自然が共生しているところであるものの一定部分は「ここは自然がそのまま残されている」というような隔絶感をつukらなければならぬとか、無電柱化なども宿題になっていますが、ここからがスタートです。

いずれにしても、70周年を機に、今回のナショナルパーク化の選定によって、私たちの暮らす伊勢志摩国立公園というものに関心を示すきっかけになったし、そして、その行動を起こすきっかけにもなったと思うので、非常によかったと思っています。県としても連携してやっていきたいと思ひますので、志摩市や地元の皆さん、伊勢志摩国立公園協会の皆さんと一緒に、1人でも多くの方にアクションを起こしてもらひ、そんな形を目ざしたいと思ひます。

3-2 国立公園の魅力向上の取組

志摩市長

この国立公園を本当に満喫してもらひするために、志摩市ではサイクリングツーリズムの確立を地方創生の一環としてやっております。今、鵜方駅前でも、サイクリング自転車の貸出しを行っております。正直いうと、先々になりましたら、ヨーロッパや欧州からも来ていただけるような、ちょっと富裕層に向けたツーリズムをやってみたいと思ひますので、これにも御尽力をお願いいたします。

この間、賢島で1人ぼうっと立っておりますたら、ある外国人の方が来られて、いきなり写真をみせるわけです。その中に、「志摩市には阿児と大王に、2つの灯台がある」と言ひました。その写真を見せながら、「ここへ行きたい、どう行ったらいいか。」ということで、私もつたない対応をしながら説明したわけですが、こういったときに案内板の設置や、知事の言われるビューポイントの設定が非常に大事だと思ひています。

それにつきましても、一番大事なのが、実は、このサイクリングロードをしようとしたときでも、ほとんどが県道です。今回は、サミットで結構大きなところはきれいにさせていただきましたけども、そういったところにもできたら御配慮をいただくようにお願ひしたいと思ひます。

鵜方駅前では、一般社団法人志摩スポーツコミッションがレンタサイクル事業などで非常に頑張っていますので、こういったことも御支援お願ひします。

知 事

ありがとうございます。志摩市さんでは、伊勢志摩サイクリングフェスティバルや伊勢志摩里海トライアスロンなど積極的に開催していただいて、誘客をやっていただいております。私も、伊勢志摩・里海トライアスロン、この前、開会式に参加させていただいて、非常に盛り上がっている雰囲気でしたし、地域と密着して、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構からも表彰されたりして非常に評価の高い大会になっていますので、ぜひこれを機にサイクリングツーリズムを進めていただきたいと思います。

平成33年の「三重とわか国体」でも、トライアスロンの会場地として手を挙げていただいておりますので、さらに加速をしていただければと思います。例えば道路管理者として何かこうしてほしいということがあれば、いろんな協議をしていきたいと思います。

広島の尾道で広島県知事との1対1対談のようなものをしたときに、しまなみ海道10キロを湯崎知事と一緒に自転車で行ったことがあるんですが、尾道はやはりサイクリングツーリズムで頑張っているの、ポイントポイントで行った店、そればかり選ばれたかもしれませんが、行ったらちゃんと自転車をかけるラックみたいなものが全て置いてあったり、ジャケットなどを置いたりする場所もあったりしたので、そういう地元の皆さんに御協力をいただかなければならないような環境整備なども含めて、一緒にやっていきたいと思っています。

それから、スポーツツーリズムの関係では、とりわけ志摩市に私が大いに期待しているものの一つが、今、三重県の観光で積極的に取り組んでいるゴルフツーリズムです。ゴルフツーリズムについては、富裕層の皆さんが大変関心を持っています。この前もタイのパタヤから100人ほど「合歓の郷」にゴルフに来てもらいました。一気に104人がゴルフをしに来て、長期滞在して、その104人のうち20人はゴルフができない人なので観光をずっと一緒に回っているというような状況でしたから、今後、消費額を増やしていくという観点で、ゴルフツーリズムは非常にいいと思います。志摩市は伊勢志摩サミットで知名度が上がった、あるいは、過去には全米女子ゴルフのツアーをやるようなゴルフ場もあるわけですので、いずれにしても、ゴルフツーリズムにおいて重要な地位を占めていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

志摩市長

本当に四季を通じて雪が降らないということで、1年中、ゴルフができるということで、大変楽しいゴルフ場がたくさんありますので、また、先ほど知事が言われたようにミズノクラシックやTOTOクラシックが行わ

れたことで、世界で有名になりましたので、ぜひともこれも一つの地方創生戦略に組み込みたいと思っています。

いずれにしましても、このように地域の宝を磨き抜く、そして、志摩市の宝を見つける、こういうことをしながら、まず地域の方々の協力をいただきながら、地方創生また地域の振興を図っていきたいと思っています。

3-3 国立公園の価値向上に向けた取組

志摩市長

また、国立公園の価値を改めて位置付けることも大事だと思いますので、その辺についてもよろしくお願ひします。

「観光、観光」と言いますが、やっぱり本当に一番大事なのは、地域の方々が観光に対してどのように思っていたか。これはDMOにつながるの、DMO以前にまた行政も一緒になるわけですが、先ほど言いましたように、地域全体で観光は大事だと思っていますので、こういったことや有効な手段とかあったらお願いしたいと思っています。先ほど言いましたように、例えば観光パンフレットを一番簡単に地元住民が見ることができるといことで、実は各家庭に配りたいと思うわけ。そういったときに、また県のほうのパンフレットをいただきたいと、そういうこともまたお願いしたいと思います。

本当にいろんなことありますけども、とにかく地域のために頑張りたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

もう一つは、知事はサミットレガシーと言いまして、遺産をやっぱり酒のレガシー、食のレガシー、景色のレガシー、おもてなしのレガシーを生かして、三重県の県政としていただき、ありがとうございます。

我々としては、それに応えるべく、志摩市のサミットのレジェンドをつくりたい。伝説です。また、当市の加藤副市長は環境省から来ていまして、非常に今頑張っているわけですが、「それは思い切った戦略にはならないけど話題にはなる」と言われたんですけども、実はそういうのを100ぐらい集めて、三重県のレガシーとサミット開催地のレジェンドを集めて、この効果をいつまでも残していきたいと思っていますので、そういったときの御相談をよろしくお願ひします。

ちなみにレジェンドの1つとしては、警察官との交流、地域の方々のもてなし、こういった一つのエピソードがたくさんあります。これは知事のブログにもたくさん書いてありました。ああいったことを拾い上げながら、ひとつの100の話題をつくっていきたいし、また、キャメロン首相がこの志摩の海で泳いだといったことも1つのレジェンドです。実は知事の言う

レガシーの中にそのレジェンドも組み込んでいただいて、より幅の広い形で伊勢志摩サミットを後世に伝えていきたい。そして、それを伊勢の、三重の、鳥羽の、そして志摩の地域振興に続けていく、そのための御支援と御協力をお願いしたいと思います。

知 事

はい、ありがとうございます。レジェンド、ぜひ加えていただければと思います。先ほど市長から、国立公園の価値の向上というようなことでおっしゃっていただいて、その取組を少し御報告しておきます。

「日本農業遺産」と「食と農の景勝地」という2つの制度が、今年度から国で新しくつくられました。「食と農の景勝地」は言葉どおり、食と農業、これがつながった皆が訪れるべき場所、学ぶべき場所というのが「食と農の景勝地」ですし、「日本農業遺産」は、農業だけではなく林業や水産業で、次世代に残していくべき技術や遺産、そういうものを選ぶというもので、いずれも農林水産省がやっています。

これは県が申請主体になれないので、それぞれの団体をお願いして、各団体の皆さんに頑張っていただいておりますので、その御報告になります。

「食の農の景勝地」については、伊勢志摩観光コンベンション機構を取組の主体としまして、「神宮でつなげる伊勢志摩の食と文化の伝承」をテーマに、申請書を既に国に提出しております。現在、国で審査をさせていただいております。これが選定されるようにしっかり働きかけをしていきたいと思っております。

それから、「日本農業遺産」、これは、今回のサミットで多大な御尽力をいただきました三重県真珠振興協議会の皆さんが真珠で、それから、海女振興協議会の皆さんが海女漁で、申請の準備を現在進めていただいておりますので、県としても万全のサポートをして、これらが選ばれるようにしっかり取り組んでいきたいと思っております。

今のは農林水産業技術としての遺産ですが、併せて、これまでに「鳥羽・志摩の海女漁」は県の文化財にしておりますが、国の文化財に早くなるように、また、将来的にユネスコのところにいけるように、これも引き続き皆さんと協力をして取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いしたいと思います。

先ほど市長からおっしゃっていただいたようなレジェンドがたくさん貯まっていて、県も今、県民会議のSNSなどで、意識的にこぼれ話のように「こういうのが始まっています」とか、海外との関係でなくても、例えば伊勢市さんで、クリーンアップ活動を始めたあるまちづくりの協議会の皆さんが、「そのときに初めて清掃活動をやったけど、これはいいことだ

から続けていこう」ということで、この前、8月7日に清掃活動をやってもらったりとか、そういうサミットをきっかけに始まった取組が、その後も地域の1つの取組として続いていくというような、そんなこぼれ話なども出させていただきましたので、レジェンドの中にたくさんそういう志摩市の取組が、「やっぱり志摩市は御当地だから、いろんなレジェンドがあるな」というふうにしていただけるように大いに期待していますし、我々もしっかり連携していきたいと思えます。

志摩市

ありがとうございます。そして、地方創生に絡んでなんですが、その中でさっき観光戦略が一番大事だと私言いましたし、今知事にもおっしゃっていただいて、観光客にたくさん来ていただこうと。そういう中で、思いがありますが、知事と一緒に台湾に行きましたけども、台湾のお客さんを誘客したいと思っています。

県は、高雄市とこの間、MOUを結びました。それで、志摩市は、台東とMOUを結びました。来年には、台湾の新城郷と友好都市を結びたいと思っています。そういったときに、台湾からたくさんの方々に来ていただくためには、やっぱり台湾に駐在員が必要です。そういった場合には、知事のほうでお考えになっているのか、そういった県の御紹介のところへ志摩市も乗ることができないのか、そういうことも併せてちょっとお聞かせいただきたいと思えます。

知 事

はい。今年1月、志摩市長とともにお邪魔をし、私は立会人という形で、志摩市と伊賀市とそして台東県の自治体間連携のMOUを結んでいただきました。これは、志摩市の方、よく御存じだと思いますが、台東県は、台湾の中で最もサーフィンが有名な場所といってもいいようなところですし、観光、文化、そういうものが非常に盛んなところなので、この志摩市と非常によく似た場所です。加えて、大学もあって、若者がたくさんいる、非常にいいところだと思います。

黄県長が主催してくれたいろんなレセプションで、大口市長がたくさん飲んでいただいて、皆さんから大変人気をばくしていたところでしたが、ああいう形で台湾との関係を発展させていただくというのは、我々も、今、国際戦略で最も力を入れているのは台湾ですので、県だけではなく市町における取組がさらに進展していくことは大いに期待をしていますし、台湾政府も期待をしていると聞いています。

3日前の蔡英文総統の記者会見でも、日本と台湾の地方同士の交流が進

むことを期待したいというような記者会見の報道もありましたので、それは時宜を得たものだと思いますし、向こうもウエルカムであろうと思っています。

駐在員については、台東県は南のほうにありますので、高雄市という、台北の次に大きい南部の都市で、台湾のナンバー2の都市ですが、高雄市の交流協会、台湾は国として認定されていないので大使館を置くことができないので、大使館の代わりに交流協会となっています。で、その交流協会の本部が台北にあって、高雄に交流協会高雄支部がありますが、だから、ほかの国でいうと総領事館みたいなものですね。この高雄の交流協会に、自治体では初めてですが、去年4月から三重県職員を派遣しています。新たに駐在を置くというのはありませんが、太田というのが行っていますので、その太田をフル活用していただいて結構です。志摩市が仲間で一緒に置いていただくのはありがたいことです。

志摩市長

その節はお願いします。本当に知事にはいつも三重県民のため、御尽力ありがとうございました。

この地方創生というのは、文化から、厚生から、建設から非常に間口が広いわけで、今回は観光に特化しましたが、今後ともまた御指導をお願いいたします。

43の事業を5年間で実施するわけですが、一番大事なものは、これまでのいろんな戦略がありますが、実は、行け行けどんどんで、結果を想定せずに行ってきた。今回は、結果を想定して、結果に至るまで、試行錯誤しながら、また戻りつつやって、それを確実に実行させるのがこの地方創生戦略ですので、そういうことで動きますので、また、これからも多々県にお願いしたいこと、相談したいことがあると思いますけど、よろしくお願ひしたいと思います。

特に一番近いのは、サミット記念館の今後の活用の仕方、今回、うちのサミット推進室が言っていますとおり、本当に本音の話をしながら、県にもプラス、志摩市にもプラス、伊勢志摩にプラスという形でやりたい。一番私の思いとしては、まず三重県民が必ず来たがるところにしてほしい、そして、もう一つは、国内の方々が志摩へ来たときに伊勢志摩サミットの姿が見える、いろいろサミットはあったわけですが、私もあちこちのサミット記念館を見ましたが、結局は記念に置いただけ、メモリアルだけ、そこからアクションがありません。そのアクションができる場所にしてほしいと思います。それがゆくゆくは、世界から集まってきたインバウンドで来られた方々が、そこへ来れば日本が見える、なおかつ三重県が見える、

そういった施設にしてみたいなと思っていますので、それを含めて、またよろしくをお願いします。

きょうは、本当にありがとうございます。

(3) 閉 会

知 事

大口市長、ありがとうございました。そして、傍聴いただきました皆さん、本当にありがとうございました。

きょうは、地方創生という中で、メインはポストサミットと観光というお話をしていただきました。サミットは当日までは、間違いなく成功だったと思うし、無事故でした。その後、「サミットを活用したまちづくりをやっている」というふうに県外の人たちからも思っていたくためにも、やっぱり志摩市が一番熱くなっていたく、「志摩市がやっぱり一番サミットを活用している」、それが波及して県内に、そして県外にという、県外の人たちから見ても「サミットを活用している」というようなところですので、県も一緒にサミットをやってきたわけですけども、全力で連携してやっていきたいと思っておりますので、ぜひ、「やっぱり志摩市が一番盛り上がっている」と言ってもらえるようなアクションを期待していますので、引き続き連携してよろしくお願ひしたいと思ひます。

本当にありがとうございました。